

脳梗塞の治療とリハビリテーション



津島市民病院
リハビリテーション科
部長
紙本 薫

脳梗塞とは

みなさん、「脳梗塞」という病気をご存じですか？
脳を栄養する動脈がつまってしまい、血液が通わなくなり、脳の働きが悪くなる病気です。

脳梗塞は大きく脳血栓と脳塞栓の2つに分かれます。

1) 脳血栓は、脳内の動脈や頸部(くび)の動脈に起きた動脈硬化のため、動脈の内腔が狭くなり、ついには完全に動脈がつまってしまうものです。高血圧、糖尿病、高脂血症(コレステロールや中性脂肪が高いこと)などが原因と考えられています。

2) 脳塞栓は、脳の血管自体には問題がないにもかかわらず、心臓や頸部の動脈などにできた血液の塊(血栓)が血流に乗り脳血管に到達し動脈をつまらせてしまうものです。心臓の弁の異常(心臓弁膜症)やリズムの不整(不整脈)により、心臓内に血栓ができた場合や動脈硬化により頸動脈にできた血栓が原因となります。

脳梗塞の症状

脳梗塞になると、血液の通わなくなった脳の細胞は死に至ります。それにより通常片側の顔面・手足の動きが悪くなったり、言葉がしゃべりにくくなったり、飲み込みが悪くなるといった症状が見られます。救急医学の領域では、片側の顔面や上肢の動きが悪くなったり、しゃべりにくいなどの症状があれば脳梗塞・脳出血の可能性が高いため、すみやかに専門機関を受診し、検査を受けることが推奨されています。

脳梗塞の治療

従来、脳梗塞では、手術療法はほとんどなく薬物療法が中心でした。従来の薬物療法に加えて、発症後4.5時間(4時間30分)以内であれば、強力な血栓溶解薬(脳動脈をつまらせた血の塊を溶かす薬)を静脈から注射

することができ、この治療によって劇的に症状が改善する症例を経験します。さらに近年発症からおおよそ8時間以内にカテーテルを用いて血の塊(血栓)を除去し回収する治療が少しずつ普及してきています。いずれも、除外基準がありますが、発症後早期に受診することにより、その恩恵にあずかれる可能性があります。脳梗塞が疑われる症状があれば出来るだけ早く受診されることが重要です。

脳梗塞のリハビリテーション

脳梗塞のリハビリテーションは発症早期から実施することで機能予後が良くなることが知られています。発症早期から、手足の麻痺、しゃべりにくさ、嚥下障害(飲み込みにくさ)、失語症(言葉の理解や表出ができない)に加えて、食事、更衣、トイレ動作、移乗(車いす等への乗り移り)歩行などの基本的な日常生活動作が出来るだけ自ら行えることを目指して、訓練を行うとともにサポートさせていただきます。

当院リハビリテーション部門の特長

当院では急性期脳梗塞の治療後も、集中してリハビリテーション治療が行える回復期リハビリテーション病棟を有していますので、在宅生活への復帰をめざして継続してリハビリテーションに取り組んでいます。

